

基本情報

科目名	学校保健
時間割コード	0430451201
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	古賀 由紀子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
古賀 由紀子

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童生徒の発育・発達、健康そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から、保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌について説明できる。
履修上の注意事項	授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(事前60分)。授業の復習を行うこと(事後60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験85%, レポート15%により評価する
テキスト	学校保健ハンドブック 第6次改訂 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい
参考文献	学校保健実務必携 第一法規
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	古賀：公立学校養護教諭経験

授業計画

授業計画
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	学校保健概論・・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造		
2	学校保健概論・・・学校保健の歴史		
3	学校保健組織活動・・・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織		
4	学校保健計画・・・学校教育目標との関連、保健室経営との関連		
5	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題1.(発育・発達の実態)		
6	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題2.(疾病異常、体力の実態)		
7	学校保健の対象・・・心の健康問題、精神保健		
8	学校保健活動・・・保健管理：領域側面、意義、方法		
9	学校保健活動・・・保健管理：健康観察、健康相談		

授業計画

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく（60分）。授業の復習を行うこと（60分）
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後に書かせるが、内容を確認し自由に編曲する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	学校保健活動・・・保健管理：健康診断、保健調査		
11	学校保健活動・・・保健管理：感染症予防		
12	学校保健活動・・・保健管理：学校環境衛生		
13	学校保健活動・・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置		
14	学校保健活動・・・保健教育：学校における保健教育の考え方		
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育		

基本情報

科目名	精神保健
時間割コード	0430451301
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
水間 宗幸、平川 泰士

詳細情報

授業の目的・到達目標	1 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。 2 精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種との役割と連携について基礎的知識を備える。
履修上の注意事項	1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。 4 予習45分、復習45分、計90分を目安とする。
評価方法	試験による評価（70%）および 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）。なお希望者には個別に評価内容を伝える。
テキスト	「最新 精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援」 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（中央法規）
参考文献	
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	精神保健の概要（担当：水間）		
2	精神保健分野の動向と基本的考え方（担当：水間）		
3	社会構造の変化と新しい健康観（担当：水間）		
4	ストレスと精神の健康（担当：水間）		
5	家族およびライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）（担当：水間）		
6	家族およびライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）（担当：水間）		
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（担当：水間）		
8	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（担当：水間）		
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 貧困、ホームレス、引きこもりと精神保健等（担当：水間）		
10	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 異文化接触、LGBT、触法行為と精神保健等（担当：水間）		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	精神保健に関する発生予防と対策 うつ病と自殺予防対策等		
12	精神保健に関する発生予防と対策 家族に関する子育て支援と虐待予防、引きこもり等		
13	地域精神保健に関する偏見・差別の課題（担当：水間）		
14	精神保健に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携（担当：平川）		
15	精神保健に関する国際的動向（担当：水間）		

基本情報

科目名	発育発達論
時間割コード	0430305201
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	藤原 大樹
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(統合)

担当教員情報

教員名	
藤原 大樹	

詳細情報

授業の目的・到達目標	この授業の目的は、ジュニア、高齢者、女性、障害者など様々な対象に合わせたスポーツ指導を実施するために必要な発育発達に関する知識を深めることである。学修者は、ジュニア期の身体的・心理的特徴、スポーツ傷害、トレーニング方法、また中高年、女性、障害者の特徴を考慮した運動プログラムの重要性について説明できるようになる。
履修上の注意事項	予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと(30分) 復習：各回の講義において提示されるテーマについての小レポートを作成すること(30分)
評価方法	期末試験50% 小レポート20% 小テスト30%
テキスト	なし
参考文献	発育・発達への科学的アプローチ：藤井勝紀(2007)三恵社 子どもの発育発達と健康：青柳領(2006)ナカニシヤ出版
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと(60分) 復習：各回の講義において提示されるテーマについての小テスト、小レポートを作成すること(60分)	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション		
2	発育発達の基礎、スキャモンの発育発達曲線、生涯スポーツ		
3	乳幼児期：身体的特徴、心理的特徴、運動発達		
4	青少年期：身体的特徴、心理的特徴		
5	青少年期：運動発達、トレーニング		
6	子どもの運動・身体活動状況、運動・身体活動の意義・恩恵		
7	発育発達とスポーツ傷害、子どものスポーツ傷害予防		
8	高齢者：身体的特徴・心理的特徴		
9	高齢者：運動・スポーツの意義・恩恵、運動指導		
10	女性：男女差、女性特有のスポーツ傷害		
11	女性：ジェンダーとステレオタイプ、映画「プリティリーグ」		
12	アダプテッドスポーツ：障害の定義と種類、アダプテッドスポーツの現状		
13	アダプテッドスポーツ：アダプテッドスポーツ実習		
14	アダプテッドスポーツ：福祉から競技へ、映画「マダーボール」		
15	授業のまとめ		

基本情報

科目名	救急処置法
時間割コード	1000980401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 4, 木 2, 他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	井手 裕子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(保健)

担当教員情報

教員名
肥後 成美、井手 裕子、江崎 太一

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>学修者は生命に関わる緊急を要する救命処置、頭頸部外傷への対応、スポーツ現場での事故を予測し、発生した際の正しい知識技術を身につけ、緊急対応計画の重要性や的確な傷害評価の方法、内科疾患における救急処置の基本的な留意点と適切な手順を自ら実践説明が出来るようになる。また、スポーツ現場で備えておくべき救急処置機材に関する知識と利用法についても実践・説明できるようになる。</p>
履修上の注意事項	<p>実習に際しては適した服装で受講するようにすること。</p> <p>予習・復習を120分すること。</p>
評価方法	受講態度30%、定期試験70%で判断し評価する
テキスト	公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト 第8巻 財団法人日本スポーツ協会
参考文献	
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション(井手)		
2	救急処置の基本的知識(井手)		
3	スポーツ現場における救急処置(井手)		
4	外傷時の救急処置(RICE処置、止血、テーピング)(井手)		
5	外傷時の救急処置(特殊な処置-理論)(井手)		
6	外傷時の救急処置(特殊な処置-実技)(井手)		
7	外傷時の救急処置(患部固定法、運搬法)(井手)		
8	緊急時の救命処置(CPR理論)(江崎)		
9	緊急時の救命処置(CPR実技・基礎)(肥後)		
10	緊急時の救命処置(CPR実技2・応用)(井手)		
11	緊急時の救命処置(AED理論)(井手)		
12	緊急時の救命処置(AED実技)(肥後)		
13	内科的疾患の救急処置(急性)(江崎)		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	内科的疾患の救急処置（慢性）（井手）		
15	現場における救急体制（井手）		

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0430900501
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	火 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	陶山 三千也
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
陶山 三千也

詳細情報

授業の目的・到達目標	中学校・高等学校における保健体育科の目的や目標、教育内容及び指導方法に関する基本的な理解を図り、実践的な能力を高めるとともに中学校・高等学校の体育授業がどのようなことを踏まえて作られているかを理解する。
履修上の注意事項	授業回数の2/3以上の出席の無いものは、単位の修得をすることはできない。 教員志望者として、ふさわしい態度と心構えで受講すること。 受け身にならず主体的に学ぶ姿勢で受講すること。
評価方法	2/3以上の出席者に対して試験を実施する。試験においては、授業内容の理解度を評価する。 ・出席状況及び受講態度・・・50%、 ・期末テスト、課題提出および小テスト・・・50%
テキスト	・文部科学省 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房（平成29年7月） ・文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」東山書房（平成30年7月）
参考文献	杉山・高橋・園山編著 教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」大修館書店
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
中学校・高等学校における保健体育教育の目的・目標、役割を明らかにし学習指導要領に基づく指導内容に焦点を当て授業を展開する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	教科ガイダンス 保健体育科教育法 概説		授業の進め方、評価方法、 受講上の留意点
2	学校教育における体育		総則と体育、体育の目標 と内容、体育の指導計画
3	学校教育における体育		体育の学習指導と評価、 選択制授業、男女共習授業
4	A 体力づくり運動		体力づくりの意義と構造
5	B 器械運動		マット運動、鉄棒運動、 平均台運動、跳び箱運動 の特性に応じた授業づくり
6	C 陸上競技		個人的運動の集団化を図る 陸上競技の授業づくり
7	D 水 泳		非日常的環境である「水 の中で運動すること」を 段階的に学べる授業づくり
8	E 球 技		ゴール型、ネット型、ベ ースボール型の3つの型 の球技の特性に応じた授 業づくり

授業計画

中学校・高等学校における保健体育教育の目的・目標、役割を明らかにし学習指導要領に基づく指導内容に焦点を当て授業を展開する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	F 武道		対人性の中で心と技を学び伝統的な行動と相手を尊重する態度を大切にす る授業づくり
10	G ダンス		創作ダンス、フォークダ ンス、現代的なリズムダ ンスの3つのダンスと特 性に合った授業づくり
11	H 体育理論・保健		スポーツに関する科学的 知識と保健衛生に関する 実践の習得に関する授業 づくり
12	学習指導要領に基づく指導計画		体育の指導計画と指導案 作成
13	学習指導要領に基づく指導計画		保健の指導計画と指導案 作成
14	教師論		教師になるための基礎知 識
15	授業全体の総括		保健体育科教育法 の授 業の振り返りを行う

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0430900601
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	末松 大喜
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
末松 大喜

詳細情報

授業の目的・到達目標	健康観の変遷を理解する。 国民健康の現状と課題を把握し、高校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。 新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。 新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。 また、中学校・高校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力を高められるように進める。
履修上の注意事項	各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。
評価方法	期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）
テキスト	最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省
参考文献	現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店 中学校学習指導要領 文部科学省
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）		
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）		
3	保健体育科教師としての健康哲学		
4	中学校および高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案		
5	中学校・高校期の発育の特徴		
6	中学校・高校期の発達の特徴		
7	保健科教育の授業づくり		
8	課題レポート（保健科教育カリキュラム）バズセッションと全体討議		
9	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）		
10	安全教育・安全管理・応急処置		
11	模擬授業 現代社会と健康・前半		
12	模擬授業 現代社会と健康・後半		
13	模擬授業 生涯を通じる健康		
14	模擬授業 社会生活と健康		
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて		

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0430900701
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	堤 公一
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
堤 公一

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。</p> <p>1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価などの基本的な考え方を理解することができる。</p> <p>2 学習指導要領において取り上げられている体育分野領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。</p>
履修上の注意事項	<p>授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと（60分）。</p> <p>授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと（60分）。</p>
評価方法	<p>試験50%、模擬授業実践演習レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%</p> <p>上記についてのコメントをメールにてフィードバックする。</p>
テキスト	<p>文部科学省（2018）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」東山書房 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著（2010）「新版 体育科教育学入門」大修館書店</p>
参考文献	<p>高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育」東洋館出版社</p>
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
2	体育のこれまでとこれから（学習指導要領と保健体育科の変遷）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
3	体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
4	体育の学習指導法（体育におけるICT利活用）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
5	体育の授業づくり（体育授業の条件）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
6	体育の授業づくり（体育授業と評価）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
7	体育の授業づくり（体育授業のリフレクション）	授業内容についてリフレクションしておくこと	
8	体育の授業づくり（体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論）	授業内容についてリフレクションしておくこと	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
9	体育の模擬授業実践演習 (学習指導案の作成)	授業内容についてリフレクションしておくこと	
10	体育の模擬授業実践演習 (学習カードの作成)	授業内容についてリフレクションしておくこと	
11	体育の模擬授業実践演習 (模擬授業実践「ねらい1」)	体験・参観した模擬授業についてリフレクションしておくこと	
12	体育の模擬授業実践演習 (模擬授業実践「ねらい2」)	体験・参観した模擬授業についてリフレクションしておくこと	
13	体育の模擬授業実践演習 (模擬授業実践「ねらい1」リフレクション)	体験・参観した模擬授業についてリフレクションしておくこと	
14	体育の模擬授業実践演習 (模擬授業実践「ねらい2」リフレクション)	体験・参観した模擬授業についてリフレクションしておくこと	
15	総括リフレクション(模擬授業実践演習レポート作成についての検討)	授業内容についてリフレクションしておくこと。定期試験に向けて授業内容の復習をしておくこと	

基本情報

科目名	保健体育科教育法
時間割コード	0430900801
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	末松 大喜
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
末松 大喜

詳細情報

授業の目的・到達目標	健康観の変遷を理解する。 国民健康の現状と課題を把握し、中学校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。 新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。 新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。 また、中学校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進める。
履修上の注意事項	各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。
評価方法	期末試験（40％）、課題レポート・授業参画態度等（60％）
テキスト	平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編 佐藤豊 編著
参考文献	最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）		
2	健康科学概論（中学校期に作り上げる健康観）		
3	保健体育科教師に必要な心と健康の倫理		
4	保健体育の指導案		
5	中学校期の発育の特徴		
6	中学校期の発達の特徴		
7	良い保健科の授業と悪い保健科の授業		
8	保健科教育教材内容の構造化		
9	課題レポート（自分が受けた保健科教育）パズセッションと全体討議		
10	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）		
11	模擬授業 心身の機能の発達と心の健康		
12	模擬授業 健康と環境		
13	模擬授業 傷害の防止		
14	模擬授業 健康な生活と病気の予防		
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて		

基本情報

科目名	武道
時間割コード	1001080401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	平崎 和雄
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(総合)

担当教員情報

教員名
平崎 和雄

詳細情報

授業の目的・到達目標	学修者が、それぞれの種目の特性として歴史・基本ルールを知り、基本的な型・稽古の技術を習得する。それらの技術や戦略を指導できるようになる。
履修上の注意事項	中学校・高等学校保健体育教諭免許状を取得希望の学生は必ず受講すること。アスレティックトレーナー取得希望者は受講を推奨する。予習復習をすること(120分)
評価方法	受講態度、提出物、出席を総合的に判断し評価する。
テキスト	なし、必要なプリントを適宜配布することがあります。
参考文献	なし
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	平崎：全空連二段で道場で指導 田中：全柔連四段で自衛隊で指導 山下：全剣連七段で高等学校にて指導

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションと空手道の歴史や基本的ルールや試合・演武を説明できる(平崎)		
2	空手道の受け・突き・蹴り及び型の種類、組手の攻防について説明できる(平崎)		
3	空手道の型の指導が説明できる(平崎)		
4	空手道の組手の指導が説明できる(平崎)		
5	空手道の型・組手攻防の指導教育法が説明できる(平崎)		
6	剣道の歴史や基本的ルールや試合を説明できる(山下)		
7	剣道の面、胴、籠手の攻防について説明できる(山下)		
8	剣道の稽古の指導が説明できる(山下)		
9	剣道の試合の指導が説明できる(山下)		
10	剣道の攻防の指導教育法が説明できる(山下)		
11	柔道の歴史や基本的ルールや試合を説明できる(田中)		
12	柔道の受け身の指導について説明できる(田中)		
13	柔道の投げ技の指導が説明できる(田中)		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	柔道の寝技の指導が説明できる（田中）		
15	柔道の攻防の指導教育法が説明できる（田中）		

基本情報

科目名	武道（剣道）
時間割コード	0430303701
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	水 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	山下 照喜
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（統合）

担当教員情報

教員名
山下 照喜

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、スポーツ医科学的検証に必要な知識を学ぶ。学修者は、日本の伝統文化としての剣道を理解し、剣道の基礎的実践の技能を通じ、心身の鍛練と技能の向上を図る。さらに剣道の特性をとらえ知識の向上、生涯体育としての位置づけを行う。初心者にも分かり易く、基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるようになる。
履修上の注意事項	予習・復習を120分するように心がける。予習としては剣道のルール、剣道形の解説について十分把握しておくこと。 復習としては剣道競技ルール、審判のしかた、剣道形について配布プリントを読み、剣道形の練習をすること。 竹刀の点検を十分に行うこと
評価方法	レポート20%、自主的学習態度10%、実技テスト70%による総合評価
テキスト	使用しない
参考文献	特に指定しない
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ダンス
時間割コード	1001090401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	藤崎 道子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(総合)

担当教員情報

教員名	
藤崎 道子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	ダンスは柔軟な身体を維持するために必要とされる身体運動である。 本講座で学修者はダンスウォーミングアップを習得し、のびやかに動ける身体を身につけることができるようになる。 またダンスの要素を取り入れたエアロビック運動と表現としてのダンスの違いを理解し、エアロビックダンスの基礎動作習得および他者への指導ができるようになることを到達目標とする。
履修上の注意事項	実技に支障をきたすようなものを身につけないこと。(アクセサリー) 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。(教職希望者) 予習・復習として120分の自学習を行うこと。
評価方法	個人技能実技試験(ダンス)30%、指導法実技試験(エアロビクス)30%、レポート10%、学習態度30%
テキスト	特になし
参考文献	特になし
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	エアロビックダンス指導者として25年、現場指導。 公益社団法人 日本フィットネス協会のディレクター及びエグゼクティブとしてエアロビクスに関する資格取得の講習会担当。

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意)ダンスDVD鑑賞	ダンスに関する動画(YouTubeなどを活用)を事前に見ておく。	
2	学校体育における「ダンス」の位置づけとねらい・ダンスとエアロビックダンスとの違いを理解する	授業で学んだダンスの特徴についてノートにまとめる	
3	現代的リズムのダンス(アップテンポの曲に合わせてのびのびと動く)	授業で行ったダンス動作を一日20分、練習する(20分×6回)	
4	現代的リズムのダンス(表現力を高めるためのアイソレーション・基本ステップの習得)	ストレッチを一日20分行う(20分×6回)	
5	現代的リズムのダンス(課題ダンス習得と表現理解)	授業で行ったダンス動作を一日20分、練習する(20分×6回)	
6	現代的リズムのダンス実技技能テストに向けた練習	実技試験で行う課題ダンスの練習を行う	
7	ダンス実技試験	実技試験を実施後の自己フィードバックをレポートする。	
8	創作ダンスの作り方	ダンスパフォーマンスの動画を探し、事前に見ておく	
9	創作ダンス活動 グループワーク	ダンスに使う楽曲を準備する	
10	創作ダンス活動 グループワークダンス創作	グループで作成したダンスを踊れるように練習する。(復習)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
11	エアロビックダンス体験	エアロビックダンスを受講した感想をレポートする。	
12	エアロビックダンスの動きと運動効果	エアロビックダンスの動きを一日20分、練習しておく(20分×6回)	
13	エアロビックダンス指導法	エアロビックダンスの指導理論をまとめる。	
14	エアロビックダンス指導実技テスト	実技試験を実施後の自己フィードバックをレポートする。	
15	まとめのレポート作成	ダンスやエアロビックダンスを行うことでの意義について考えをまとめておく	

基本情報

科目名	ダンス（エアロピクスを含む）
時間割コード	0430303801
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	藤崎 道子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（統合）

担当教員情報

教員名	
藤崎 道子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	ダンスは柔軟な身体を維持するために必要とされる身体運動である。 本講座で学修者はダンスウォーミングアップを習得し、のびやかに動ける身体を身につけることができるようになる。 またダンスの要素を取り入れたエアロビック運動と表現としてのダンスの違いを理解し、エアロビックダンスの基礎動作習得および他者への指導ができるようになることを到達目標とする。
履修上の注意事項	実技に支障をきたすようなものを身につけないこと。（アクセサリー） 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。（教職希望者） 予習・復習として120分の自学習を行うこと。
評価方法	個人技能実技試験（ダンス）30%、指導法実技試験（エアロピクス）30%、レポート10%、学習態度30%
テキスト	特になし
参考文献	特になし
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	エアロビックダンス指導者として25年、現場指導。 公益社団法人 日本フィットネス協会のディレクター及びエグゼクティブとしてエアロピクスに関する資格取得の講習会担当。

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意）ダンスDVD鑑賞	ダンスに関する動画（YouTubeなどを活用）を事前に見ておく。	
2	学校体育における「ダンス」の位置づけとねらい・ダンスとエアロビックダンスとの違いを理解する	授業で学んだダンスの特徴についてノートにまとめる	
3	現代的リズムのダンス（アップテンポの曲に合わせてのびのびと動く）	授業で行ったダンス動作を一日20分、練習する（20分×6回）	
4	現代的リズムのダンス（表現力を高めるためのアイソレーション・基本ステップの習得）	ストレッチを一日20分行う（20分×6回）	
5	現代的リズムのダンス（課題ダンス習得と表現理解）	授業で行ったダンス動作を一日20分、練習する（20分×6回）	
6	現代的リズムのダンス実技技能テストに向けた練習	実技試験で行う課題ダンスの練習を行う	
7	ダンス実技試験	実技試験を実施後の自己フィードバックをレポートする	
8	創作ダンス活動の作り方	ダンスパフォーマンスの動画を探し、事前に見ておく	
9	創作ダンス活動 グループワーク	ダンスに使う楽曲を準備しておく	
10	創作ダンス活動 グループワーク 創作	グループで作成したダンスを踊れるように練習する（復習）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
11	エアロビックダンス体験	エアロビックダンスを受講した感想をレポートする	
12	エアロビックダンスの動きと運動効果	エアロビックダンスの動きを一日20分、練習しておく(20分×6回)	
13	エアロビックダンス指導法	エアロビックダンス指導理論をまとめる	
14	エアロビックダンス指導実技テスト	実技試験を実施後の自己フィードバックをレポートする	
15	まとめのレポート作成	ダンスやエアロビックダンスを行うことでの意義について考えをまとめておく	

基本情報

科目名	水泳
時間割コード	1001100401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	行實 鉄平
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(総合)

担当教員情報

教員名
行實 鉄平

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【目的】本授業は、水泳指導に不可欠な泳力として、水泳の基本技術を身に付け、ある程度の連続泳ができるようになること、および水中運動の指導案を作成し、30分程度の水中運動指導ができるようにする。</p> <p>また、本授業は講義+実技形式で行う。有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的に、水中での身体の使い方と推進力の理論を踏まえ、水難救助の方法や、アクアエクササイズの実践、基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う。</p> <p>【到達目標】本授業では、以下の到達目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中運動および4泳法の基礎知識を理解できるようになる ・水難救助に必要な基礎知識を理解できるようになる ・水中運動に必要な実技能力(アクアエクササイズの実技)を身につける ・水泳指導に必要な基礎泳力(具体的には4泳法を25m以上)を身につける
履修上の注意事項	<p>授業前には水泳に関する参考文献および映像などを確認し、スケジュールに該当する個所の予習をしておくこと (60分)。授業後は復習として、コミュニケーションペーパー(振り返りシート)を記入していただきます (30分)。また、外のプールでの実習となるため、日焼け対策を考えておいてください。さらに、水着、帽子、ゴーグル、タオル、給水用の水筒などは、各自で準備しておいてください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため、授業への取り組みを重視する。さらに授業態度、技術点も評価する。評価配分は「授業への取り組み50%」「レポート20%」「授業態度15%」「技術点15%」とする。 ・授業時間内に事前学習について確認し、泳ぎについては、パディ及び個人に対し口頭で評価及び改善点などのアドバイスを行う。 ・授業に対する積極的な態度がみられないと評価される学生(授業に参加しない、指示を守らず勝手なことをするなど)は、その都度、口頭で改善を促す。 ・自然災害や公認欠席の対象となる感染症罹患などの理由により、本人の意思とは無関係に試験の欠席を余儀なくされる事例の場合は、実技試験(評価)の課題レポート化を認めます。
テキスト	必要に応じて資料を配布するため、特になし。
参考文献	<p>日本水泳連盟(編):水泳指導教本「地域スポーツ指導者用」.大修館書店.日本赤十字社(編):赤十字水上安全 法講習教本.日本赤十字社.日本スイミングクラブ協会(編):アクアフィットネス・アクア・スイムストラクター教本.大修館書店.</p>
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（アクアフィットネス概論）	1．アクアフィットネスの概念	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
2	水中運動の留意点	2．圧力 / 温度 / 抵抗 / 浮力	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
3	水中ウォーキング	3．水中下での身体変化	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
4	アクアエクササイズ（道具を使ったエクササイズ）	4．アクアグローブ / アクアヌードル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
5	アクアエクササイズ（音楽を使ったエクササイズ）	5．アクアピクス / BPM / キューイング	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
6	水中安全管理について	6．CPR / AED / 水中安全法	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
7	溺者への対応	7. 溺者運搬法/救助法	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
8	水中運動プログラムの計画と管理	8. 水中運動/運動プログラム/企画運営	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
9	けのびの習得	9. 蹴伸び/ストリームライン	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
10	フリーストローク(Free-Stroke)の習得	10. フリーストローク/キック/プル/コンビ/ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
11	ブレストストローク(Breast-Stroke)の習得	11. ブレストストローク/キック/プル/コンビ/ドリル/ひとかきひとけり	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
12	バックストローク(Back-Stroke)の習得	12. バックストローク/キック/プル/コンビ/ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
13	バタフライストローク(Butterfly-Stroke)の習得	13 . バタフライストローク/キック/プル/コンビ/ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
14	ターンの習得	14 . タッチターン/クイックターン	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
15	泳力テスト	15 . スタート	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)

基本情報

科目名	水泳（アクアビクスを含む）
時間割コード	0430303901
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	行實 鉄平
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（統合）

担当教員情報

教員名
行實 鉄平

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【目的】本授業は、水泳指導に不可欠な泳力として、水泳の基本技術を身に付け、ある程度の連続泳ができるようになること、および水中運動の指導案を作成し、30分程度の水中運動指導ができるようにする。</p> <p>また、本授業は講義＋実技形式で行う。有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的に、水中での身体の使い方と推進力の理論を踏まえ、水難救助の方法や、アクアエクササイズの実践、基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う。</p> <p>【到達目標】本授業では、以下の到達目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中運動および4泳法の基礎知識を理解できるようになる ・水難救助に必要な基礎知識を理解できるようになる ・水中運動に必要な実技能力（アクアエクササイズの実技）を身につける ・水泳指導に必要な基礎泳力（具体的には4泳法を25m以上）を身につける
履修上の注意事項	<p>授業前には水泳に関する参考文献および映像などを確認し、スケジュールに該当する個所の予習をしておくこと（60分）。授業後は復習として、コミュニケーションペーパー（振り返りシート）を記入していただきます（30分）。また、外のプールでの実習となるため、日焼け対策を考えておいてください。さらに、水着、帽子、ゴーグル、タオル、給水用の水筒などは、各自で準備しておいてください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため、授業への取り組みを重視する。さらに授業態度、技術点も評価する。評価配分は「授業への取り組み50%」「レポート20%」「授業態度15%」「技術点15%」とする。 ・授業時間内に事前学習について確認し、泳ぎについては、パディ及び個人に対し口頭で評価及び改善点などのアドバイスを行う。 ・授業に対する積極的な態度がみられないと評価される学生（授業に参加しない、指示を守らず勝手なことをするなど）は、その都度、口頭で改善を促す。 ・自然災害や公認欠席の対象となる感染症罹患などの理由により、本人の意思とは無関係に試験の欠席を余儀なくされる事例の場合は、実技試験（評価）の課題レポート化を認めます。
テキスト	必要に応じて資料を配布するため、特になし。
参考文献	<p>日本水泳連盟（編）：水泳指導教本「地域スポーツ指導者用」、大修館書店。日本赤十字社（編）：赤十字水上安全法講習教本、日本赤十字社。日本スイミングクラブ協会（編）：アクアフィットネス・アクア・スイムストラクター教本、大修館書店。</p>
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（アクアフィットネス概論）	1．アクアフィットネスの概念	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
2	水中運動の留意点	2．圧力 / 温度 / 抵抗 / 浮力	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
3	水中ウォーキング	3．水中下での身体変化	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
4	アクアエクササイズ（道具を使ったエクササイズ）	4．アクアグローブ / アクアヌードル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
5	アクアエクササイズ（音楽を使ったエクササイズ）	5．アクアピクス / BPM / キューイング	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）
6	水中安全管理について	6．CPR / AED / 水中安全法	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習（自分のノートにまとめる作業：約60分）および復習（コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業：約60分）

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
7	溺者への対応	7. 溺者運搬法 / 救助法	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)
8	水中運動プログラムの計画と管理	8. 水中運動 / 運動プログラム / 企画運営	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)
9	けのびの習得	9. 蹴伸び / ストリームライン	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)
10	フリーストローク(Free-Stroke)の習得	10. フリーストローク / キック / プル / コンビ / ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)
11	ブレストストローク(Breast-Stroke)の習得	11. ブレストストローク / キック / プル / コンビ / ドリル / ひとかきひとけり	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)
12	バックストローク(Back-Stroke)の習得	12. バックストローク / キック / プル / コンビ / ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業: 約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業: 約60分)

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
13	バタフライストローク(Butterfly-Stroke)の習得	13 . バタフライストローク/キック/プル/コンビ/ドリル	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
14	ターンの習得	14 . タッチターン/クイックターン	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)
15	泳力テスト	15 . スタート	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に配布資料等で予習(自分のノートにまとめる作業:約60分)および復習(コミュニケーションペーパーや個人目標シートに記載した内容を自分でまとめる作業:約60分)

基本情報

科目名	陸上競技
時間割コード	1001110401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	末松 大喜
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(総合)

担当教員情報

教員名
末松 大喜

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、理論講義と実技実践の組み合わせによって構成される。理論講義においては、ルールや科学的根拠に基づいて陸上競技を理解・解釈していく。実技では、受講者個人が到達目標を設定し、身体機能の向上を図りながら、基本的な運動技術の獲得、および測定・指導法の基礎について習得する。
履修上の注意事項	必ず運動を行える服装と運動靴で参加すること。 筆記用具および講義資料を毎回必ず持参すること。
評価方法	授業ノート50%、テスト50%
テキスト	資料を用意し配布する
参考文献	陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 大修館書店
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	陸上競技とは		
2	ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法		
3	短距離走種目のルールと練習方法		
4	短距離走の測定		
5	ハードル走のルールと練習方法		
6	ハードル走の測定		
7	長距離走のルールと練習方法		
8	長距離走の測定		
9	走り高跳びのルールと練習方法		
10	走り高跳びの測定		
11	やり投げのルールと練習方法		
12	やり投げの測定		
13	各種目への適正の評価		
14	陸上競技のスポーツ傷害		
15	テストとまとめ		

基本情報

科目名	陸上競技（ジョギング・ウォーキングを含む）
時間割コード	0430304001
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	末松 大喜
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（統合）

担当教員情報

教員名
末松 大喜

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、理論講義と実技実践の組み合わせによって構成される。理論講義においては、ルールや科学的根拠に基づいて陸上競技を理解・解釈していく。実技では、受講者個人が到達目標を設定し、身体機能の向上を図りながら、基本的な運動技術の獲得、および測定・指導法の基礎について習得する。
履修上の注意事項	必ず運動を行える服装と運動靴で参加すること。 筆記用具および講義資料を毎回必ず持参すること。
評価方法	授業ノート50%、テスト50%
テキスト	資料を用意し配布する
参考文献	陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 大修館書店
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	陸上競技とは		
2	ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法		
3	短距離走種目のルールと練習方法		
4	短距離走の測定		
5	ハードル走のルールと練習方法		
6	ハードル走の測定		
7	長距離走のルールと練習方法		
8	長距離走の測定		
9	走り高跳びのルールと練習方法		
10	走り高跳びの測定		
11	やり投げのルールと練習方法		
12	やり投げの測定		
13	各種目への適正の評価		
14	陸上競技のスポーツ傷害		
15	テストとまとめ		

基本情報

科目名	体操（器械体操を含む）
時間割コード	0430304101
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	藤崎 道子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目（統合）

担当教員情報

教員名
藤崎 道子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本授業では心と体をほぐしたり、体力を高めるための運動の行い方を理解することをねらいとする。 本授業で学修者は 体の基本的な動きを説明することができるようになる。 目的に応じた運動の行い方を理解し、動き方を創意工夫することができるようになる。 仲間と協力し楽しくかつ安全に運動を行うことの大切さを説明することができるようになる。
履修上の注意事項	実技中心ではあるが、毎時間必ず筆記用具を持参すること。 毎時間の行った実技の内容を必ずまとめる（復習） ラジオ体操の歴史について事前に調べておくこと（予習） 毎時間の予習・復習を合わせて120分おこなうこと。
評価方法	プレゼンテーションスキル実技試験 30%、レポート 10%、学習態度 30%、グループ発表 20%
テキスト	中学校学習指導要項解説 保健体育編（文部科学省）
参考文献	
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、現代の健康問題を知る、その他諸注意）	現代の健康問題について、どのようなことが問題として挙げられるか調べておく	
2	学校体育における「体づくり運動」の位置づけと狙い	体づくり運動の意図について、授業で学んだことをノートにまとめる	
3	体ほぐし運動実習 体を動かす楽しさを伝えるプログラムとは～	実際に授業で行った実技についてまとめ、動きの分析を行う	
4	体ほぐし運動実習 体の調子を整える運動とは～	ストレッチングの効果性について事前に調べておく	
5	体ほぐし運動実習と演習 心とからだの相関性について理解を深める	心と体の相関性について調べレポートする	
6	ラジオ体操の実践と指導 しい動き方をマスターする	正 ラジオ体操の歴史について調べておく	
7	ラジオ体操の実践と指導 ラジオ体操を指導する	ラ 実際に授業で行った実技についてまとめ、動きの分析を行う	
8	高齢者に対する体操の作成法とは	実際に授業で行った実技についてまとめ、体操を考えてくる	
9	若年層に対する体操（トレーニング）作成法	サーキットトレーニングについて調べておく	
10	体操創作活動 サーキットトレーニングを考える	実際に授業で行った実技についてまとめ、動きの自己分析を行う	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	体操創作活動 サーキットトレーニングをプログラムする	実際に授業で行った実技についてまとめ、動きの自己分析を行う	
12	体操グループ発表	発表されたプログラムに対するフィードバックをまとめる	
13	体力を高める楽しい体操とは	実際に授業で行った実技についてまとめ、動きの分析を行う	
14	ラジオ体操プレゼンテーション実技試験	自己フィードバックをレポートする。	
15	まとめ	これまで行われてきた実技について振り返りのレポートを行う	

基本情報

科目名	球技
時間割コード	1001120401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	手嶋 智子
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(総合)

担当教員情報

教員名
平崎 和雄、加藤 千尋、手嶋 智子

詳細情報

授業の目的・到達目標	学修者が、3つの型の種目の特性として歴史・基本ルールを知り、基本的な動作・守備側・攻撃側の技術を習得する。それらの技術や戦略を指導できるようになる。
履修上の注意事項	中学校・高等学校保健体育教諭免許状を取得希望の学生は必ず受講すること。アスレティックトレーナー取得希望者は受講を推奨する。
評価方法	受講態度、提出物、出席を総合的に判断し評価する。
テキスト	なし、必要なプリントを適宜配布することがあります。
参考文献	なし
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションとベースボール型球技の歴史や基本的ルールやゲームの進行を説明できる(平崎)		
2	ベースボール型球技のボールキャッチ・ボール投げ、打撃・バントについて説明できる(平崎)		
3	ベースボール型球技のゲーム中の守備側・攻撃側の作戦が説明できる(平崎)		
4	ベースボール型球技の練習方法(個人練習・集団練習)が説明できる(平崎)		
5	ベースボール型球技のゲーム攻防の習熟度別教育法が説明できる(平崎)		
6	ネット型球技の歴史や基本的ルールやゲームの進行を説明できる(手嶋)		
7	ネット型球技のサーブ・レシーブ・パス、アタック(スマッシュ)・ブロック(ボレー)等について説明できる		
8	ネット型球技のゲーム中の守備側・攻撃側の作戦が説明できる(手嶋)		
9	ネット型球技の練習方法(個人練習・集団練習)が説明できる(手嶋)		
10	ネット型球技のゲーム攻防の習熟度別教育法が説明できる(手嶋)		
11	ゴール型球技の歴史や基本的ルールやゲームの進行を説明できる(加藤)		
12	ゴール型球技のボールキャッチ・パス(キック)・ディフェンス等について説明できる(加藤)		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	ゴール型球技のゲーム中の守備側・攻撃側の作戦が説明できる（加藤）		
14	ゴール型球技の練習方法（個人練習・集団練習）が説明できる（加藤）		
15	ゴール型球技のゲーム攻防の習熟度別教育法が説明できる（加藤）		

基本情報

科目名	体育原理
時間割コード	0430111701
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	神野 周太郎
科目区分	共通科目 人間と生活の理解

担当教員情報

教員名
神野 周太郎

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>学修者は、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解し、歴史的な理解を踏まえて現在の問題について意見を持ち説明できるようになる。</p>
履修上の注意事項	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則の定める免許教科中学校・高等学校「保健体育」の教科専門科目「体育原理」の一般的・包括的事項を含む内容を講義する。予習・復習については、一コマあたり120分確保すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモをとる！メモには「テクニカルターム（術語）」「重要事項」「関連事項」「ひらめいたこと」を！ ・講義の内容については資料で確認する。どこで何を調べることができるかをしること、が重要！！ <p>考える！自分なりの思考で構わない。大切なのはいつも自分が問いを発生し、回答を用意すること</p>
評価方法	<p>授業内小レポート：授業毎に小レポートを課し、授業内容の理解及び授業内容に対する思考、発想について評価する（評価基準40%）</p> <p>テスト：期末に行うテストでは講義内容についての基礎的な知識の理解及び自身の思考、発想について評価する（評価基準60%）また、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。</p>
テキスト	特に指定しない。
参考文献	『身体教育を哲学する』佐藤臣彦 1993、『身体教育の思想』樋口聡 2005、『体育・スポーツの哲学的見方』久保正秋 2010
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
<p>本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。これまでの研究成果の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的な理解を踏まえて現在の問題（これからの体育における学び、部活動問題、スポーツ指導者のあり方、スポーツにおける倫理）について意見を持つことを目的とする。</p>

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	本講義の目的、内容等の説明、「体育、スポーツ」に関する調査	予）シラバスを読む	
2	体育学とスポーツ科学	復）体育原理の位置づけについて小レポートを作成する	
3	体育・スポーツの哲学研究法	復）体育原理の研究手法について小レポートを作成する	
4	体育とは何か1 体育の現状分析	復）体育の現状批判について小レポートを作成する	
5	体育とは何か2 身体教育の歴史	復）日本を中心に身体教育の歴史的展開について小レポートを作成する	
6	体育とは何か3 教育概念	復）体育論における教育概念について小レポートを作成する	
7	体育とは何か4 体育概念のまとめ	復）体育哲学者の佐藤臣彦が提唱する体育概念について小レポートを作成する	
8	スポーツとは何か1 スポーツの現状分析	復）スポーツの現状批判について小レポートを作成する	
9	スポーツとは何か2 スポーツの歴史、オリンピックと政治、人権	復）人類におけるスポーツの歴史について小レポートを作成する	

授業計画

本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。これまでの研究成果の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的な理解を踏まえて現在の問題（これからの体育における学び、部活動問題、スポーツ指導者のあり方、スポーツにおける倫理）について意見を持つことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	スポーツとは何か 3 文化概念	復) 文化概念と文化論について整理する	
11	スポーツとは何か 4 スポーツ概念のまとめ	復) スポーツ概念について小レポートを作成する	
12	スポーツの倫理 1 スポーツでは勝つことが全てか？ どこまでがドーピングとなるか？	復) 勝利至上主義と諸問題について意見をのべる	
13	スポーツの倫理 2 コーチングとは。スポーツ指導者の責任とは。	復) コーチングについて小レポートを作成する	
14	スポーツの倫理 3 体育、スポーツに関する倫理的問題：指導者の責任、人権、ドーピング、性別	復) 授業テーマについて、これまで経験した事例をもとに小レポートを作成する	
15	講義全体のまとめ スポーツ、体育、身体思想	復) 本講義で学んだことをレポートにまとめる	

基本情報

科目名	スポーツ心理学
時間割コード	0430110401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	藤原 大樹
科目区分	共通科目 人間と生活の理解

担当教員情報

教員名
藤原 大樹

詳細情報

授業の目的・到達目標	運動・スポーツ現場で働く人間にとって、運動・スポーツ場面における人間行動の理解は必須である。この授業の目的は、運動・スポーツ行動の心理的メカニズムについて理解を深めることである。 学修者は運動・スポーツに関連する心理学の基礎理論と現場での応用事例について説明できるようになる。
履修上の注意事項	予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（30分） 復習：各回の講義において提示されるテーマについて小レポートを作成すること（30分）
評価方法	試験50% 運動実践レポート10% 小レポート20% 小テスト20%
テキスト	なし
参考文献	よくわかるスポーツ心理学：中込四郎・伊藤豊彦・山本祐二（2012）ミネルヴァ書房 スポーツ心理学事典：日本スポーツ心理学会編（2008）大修館書店
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（60分） 復習：各回の講義において提示されるテーマについて小レポートを作成し、小テストを受けること（60分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・運動・スポーツ心理学とは		
2	運動・スポーツとパーソナリティ：競技者のパーソナリティ		
3	スポーツと動機づけ：競技動機、達成動機、原因帰属、目標設定		
4	運動・スポーツスキルの獲得：運動学習理論、技能評価・フィードバック		
5	スポーツ集団における集団力学：集団課程、凝集性、チームビルディング		
6	リーダーシップ：PM理論、フォロワーシップ		
7	スポーツキャリア：参加・継続・離脱・バーンアウト		
8	メンタルトレーニング：MTとは、基本的なスキルの紹介		
9	スポーツ傷害と心理的サポート：スポーツ傷害、ストレス、リハビリテーション		
10	スポーツと攻撃性：暴力行為、逸脱行為、観客の暴動		
11	運動・スポーツの心理的効果：QOL、自己概念、ストレスマネジメント		

授業計画

予習：各回の講義におけるキーワードについて予習しておくこと（60分）

復習：各回の講義において提示されるテーマについて小レポートを作成し、小テストを受けること（60分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	運動実習：ストレス測定とレポート作成		
13	身体活動プロモーション：運動行動の決定因、介入モデル		
14	身体活動プロモーション：行動変容理論		
15	授業のまとめ		

基本情報

科目名	スポーツ経営学
時間割コード	0430305301
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	行實 鉄平
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(統合)

担当教員情報

教員名
行實 鉄平

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【目的】本授業では、スポーツ経営学の学問領域における知を基軸とし、スポーツに関する組織や制度（仕組み）を理解することで、スポーツ組織の力を高めスポーツの環境整備に必要な対策を創造できる能力を養うことを目的としている。</p> <p>【到達目標】1) スポーツ経営学の理論体系を説明できる。2) 自身の興味関心のある個別スポーツ組織におけるマネジメント方策を説明できる。3) グループワークにおいて学習した知識を用いた議論ができる。</p>
履修上の注意事項	<p>授業前は教科書や参考文献およびインターネット等で「授業の展開計画」に該当する個所で使われている言葉の意味等を中心とした予習しておいてください(90分)。授業中はコミュニケーションペーパーを退出してもらいます。よって、授業欠席が続くと「授業への取り組み」だけでなく「コミュニケーションペーパー」の評価も同時に低くなりますので、注意してください。授業後は、毎時間、コミュニケーションペーパーを記入していただき、振り返りを行います。その内容をまとめる作業をしてください(90分)。</p>
評価方法	<p>本授業は「授業への取り組み(グループワークを含む):30%」「コミュニケーションペーパー(毎時提出):20%」「試験:50%」の3つの視点で総合評価する。</p> <p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックは、必要に応じて個別に対応する。再試験は実施しない。</p>
テキスト	<p>「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」山下秋二・中西純司・松岡宏高(編) 大修館書店 \2400+税</p>
参考文献	<p>「テキスト体育・スポーツ経営学」柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏(編)大修館書店 \1800+税</p> <p>「よくわかる スポーツマネジメント」柳沢和雄・清水紀宏・中西純司(編)ミネルヴァ書房 \2400+税</p>
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	<p>スポーツマネジメント活動の基本フレーム1 ～スポーツの生産と消費～</p>	<p>1. スポーツ生産/多主体協働共生/スポーツ消費者/ビジネス消費者/スポーツ取引</p>	<p>授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習(該当ページの読書:60分)および復習(コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業:60分)をおこなうこと。</p>

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	スポーツマネジメント活動の基本フレーム2 ～スポーツ組織のドメイン～	2.スポーツ産業/スポーツパフォーマンス製品/スポーツプロモーション製品/価値づくりの方向性	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
3	スポーツマネジメント活動の基本フレーム3 ～スポーツの顧客づくり～	3.快楽消費/顧客満足/ブランディング/ホスピタリティ/マーケティングミックス/組織風土	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
4	スポーツマネジメント活動の基本フレーム4 ～スポーツガバナンス～	4.マネジメントリスク/超企業的組織行動/コンプライアンス/コーポレートガバナンス/ソーシャルガバナンス	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
5	グローバルスポーツ1 ～グローバルスポーツの組織～	5.統括組織/IF/NF/プロスポーツ組織/スポーツエージェンシー/スポーツ代理人	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
6	グローバルスポーツ2 ～グローバルスポーツの市場創造～	6.メガスポーツイベント/権利ビジネス/ネーミングライツ/スポーツレガシー	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
7	グローバルスポーツ3 ～グローバルスポーツのマーケティング～	7.スポーツファン/スポンサーシップ/アンブッシュマーケティング/エンドースメント/アスリートブランディング	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
8	グローバルスポーツ4 ～プロスポーツのガバナンス～	8.ヨーロッパ型/アメリカ型/ガバメントからガバナンスへ/階層構造	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	ローカルスポーツ1 ～地域スポーツのキーアクター～	9.NPO / コモンズ / ボランティアアソシエーション / 新しい公共	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
10	ローカルスポーツ2 ～地域スポーツのイノベーションモデル～	0.地域イノベーション / コミュニティビジネス / オープンイノベーション / イノベーションのジレンマ	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
11	ローカルスポーツ3 ～スポーツとローカルネットワーク～	11.相互作用の場 / 弱い絆の強み / スポーツリエゾン / ハイブリット型スポーツクラブ	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
12	ローカルスポーツ4 ～スポーツ資産の活用とソーシャルガバナンス～	2.スポーツ資産 / ソーシャルキャピタル / 地域力 / スポーツインテグリティ / グッドガバナンス	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
13	スポーツプロモーション1 ～メディア・ツーリズムのスポーツマネジメント～	13.メディアスポーツ / SNS / スポーツツーリズム / スポーツコミッション	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
14	スポーツプロモーション2 ～アダプテッド・ボランティアのスポーツマネジメント～	14.アダプテッドスポーツ / ダイバシティマネジメント / スポーツボランティア / インタメディアリー	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。
15	総括	15.スポーツマネジメントの機能	授業に臨むにあたり、以下のキーワードを参考に教科書の予習（該当ページの読書：60分）および復習（コミュニケーションペーパーに記載した内容を自分のノートにまとめる作業：60分）をおこなうこと。

基本情報

科目名	スポーツ社会学
時間割コード	0430110901
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	立木 宏樹
科目区分	共通科目 人間と生活の理解

担当教員情報

教員名
立木 宏樹

詳細情報

授業の目的・到達目標	学修者は「スポーツ」というものが、どのように誕生し私たち人間の生活の中で如何なる機能してきたのかを社会学の視点から学び、今日の社会におけるスポーツのもつ役割機能を理解し、社会におけるスポーツのあり方について多面的に検討、説明することができるようになる。
履修上の注意事項	講義の展開が構造的に組み立てられているので、欠席しないように注意する。 授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容を関連づけて復習をすること。(120分)
評価方法	授業への取り組みと態度20% レポート提出80%
テキスト	使用しない
参考文献	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
毎回授業前に講義テーマに関連する情報を収集して授業に臨み、授業後は自らの情報と講義内容を関連づけて復習をすること。(120分)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	社会学とは何か		
2	スポーツ社会学とは スポーツ社会学の領域		
3	スポーツとは何か スポーツの本質からその歴史的展開		
4	近代スポーツから現代スポーツへ		
5	現代スポーツと社会 スポーツにみる社会システム		
6	スポーツと政治、経済		
7	スポーツと社会化		
8	肥大化するスポーツイベント		
9	スポーツと暴力問題		
10	スポーツにおける反社会的行為		
11	スポーツ政策		
12	スポーツ環境の変化 地域スポーツへの期待		
13	学校体育と学校運動部		
14	障がい者スポーツの現状と課題		
15	まとめ		

基本情報

科目名	運動学
時間割コード	0430451101
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	木 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	府内 勇希
科目区分	卒業要件外の科目 要件外

担当教員情報

教員名
府内 勇希

詳細情報

授業の目的・到達目標	スポーツの指導者には質の高い指導実践能力が要求され、これに加えて運動理論の基礎を理解しておく必要がある。本 科目では、運動及びスポーツ技能の合理的な修得段階や人間の発育発達段階および運動学の基礎について学習する。学 修者は、ヒトが成長する過程での運動及びスポーツ指導上の留意点を説明できるようになる。
履修上の注意事項	授業で学習した内容について理解を深めるために、特に復習に時間を充てること。
評価方法	レポート：20% 平常点、授業への貢献度：20% 試験：60%
テキスト	なし（資料を配布します）
参考文献	・金子明友 監修 『教師のための運動学 運動指導の実践理論』大修館書店 ・金子明友・朝岡正雄 著 『運動学講義』大修館書店
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	保健体育科教員として熊本県立第二高等学校に勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	運動学の概念について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
2	運動の発生と発達について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
3	運動学での体力について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
4	運動の学習過程について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
5	動きのアナラゴンについて説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
6	動きの構造について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
7	動きの局面分けを説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
8	動きのリズムについて説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
9	動きの修正の仕方について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
10	動きの習得について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
11	骨格系、筋系の概要について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
12	呼吸器系の概要について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
13	筋収縮について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
14	運動連鎖について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
15	まとめ	これまで学習した内容の総復習を行う（2時間）。	

基本情報

科目名	体力測定・評価
時間割コード	0430305701
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	木 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	府内 勇希
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(統合)

担当教員情報

教員名
府内 勇希

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、スポーツ医科学的検証に必要な知識を学ぶ。学修者は、健康・体力の維持、増進に携わる人材に不可欠な 体力測定およびその評価の方法について理解し、年齢や体力レベルに応じて適切な運動処方について説明できるように なる。また、運動に対する身体の基本的な反応について説明できるようになる。
履修上の注意事項	・測定の際は必ず運動できる服装で参加すること。また、体調を整えて参加すること。
評価方法	レポート(60%)、受講態度(40%)
テキスト	使用しない。
参考文献	『健康運動実践指導者養成講習会テキスト』 その他、適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	保健体育科教員として熊本県立第二高等学校に勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	健康・体力の概念および測定評価の意義を説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
2	健康・体力にかかわるデータ集計の方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
3	基本的な統計処理の方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
4	形態の測定方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
5	形態の評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う(2時間)。	
6	新体力テストの測定方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
7	新体力テストの評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う(2時間)。	
8	有酸素性能力(PWC170)の概念と測定方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
9	有酸素性能力(PWC170)の評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う(2時間)。	
10	無酸素性能力(ウイングテスト)の概念と測定方法について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
11	無酸素性能力(ウイングテスト)の評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う(2時間)。	
12	筋力の測定方法およびその留意点について説明できる	特に復習を重点的に行う(2時間)。	
13	筋力の評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う(2時間)。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	スポーツ動作の観察・分析の方法について説明できる	特に復習を重点的に行う（2時間）。	
15	スポーツ動作の評価方法について説明できる	データの集計を行い、科学的な考察を行う（2時間）。	

基本情報

科目名	スポーツ傷害の評価
時間割コード	0430305901
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	平崎 和雄
科目区分	専門科目 鍼灸専門科目(統合)

担当教員情報

教員名
平崎 和雄

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>学修者が、アスレティックトレーナーはスポーツ障害を評価する上で必要な、スポーツ動作の観察と分析の意義</p> <p>や基礎知識、スキルについて分かりやすく解説し、歩行動作や走動作、投動作などの各動作の基礎知識を習得、</p> <p>競技特性を理解しながら応用し、スポーツ選手の障害の予防やコンディショニングにつなげられる評価スキルを身に着けることができる。</p>
履修上の注意事項	<p>授業前に前回の作成した図表を復習し、授業後は次回のテキストを予習し動作のイメージをしておくこと(120分)</p>
評価方法	試験70%、課題レポート20%、予習復習による自主的学習態度10%
テキスト	講義中に資料を配布する
参考文献	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 「検査測定」 財団法人日本体育協会
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	平崎和雄：アスレティックトレーナーとして病院勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	スポーツ障害の評価の目的と意義		
2	スポーツ障害の評価とEBM		
3	歩行のバイオメカニクス		
4	歩行動作に影響する要因		
5	走動作のバイオメカニクス		
6	走動作に影響を与える要因		
7	走動作における外傷、障害の発生機転の特徴とメカニズム		
8	ストップ、方向転換動作のバイオメカニクスと影響因子		
9	跳動作のバイオメカニクスと影響を与える因子		
10	跳動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴		
11	投動作のバイオメカニクスと影響を与える因子		
12	投動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴		
13	あたり動作のバイオメカニクスと影響を与える因子		
14	あたり動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴		
15	まとめ		

基本情報

科目名	生理学
時間割コード	1000950401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	田口 太郎
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目(人体)

担当教員情報

教員名
田口 太郎

詳細情報

授業の目的・到達目標	疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能(生理学)の正しい理解が必要不可欠である。生理学では、まず生理学の基礎として細胞機能および活動電位の仕組みを説明できるようになること、続いて、血液および心機能と血液循環、呼吸に関する基礎理論を理解し、これらの正常状態を正しく説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。
履修上の注意事項	事前課題を毎回講義開始時に集めるので、受講前にテキストの該当項目を読んで解いておくこと。
評価方法	毎回の課題30点、筆記試験70点、合計100点とする。再試験は筆記試験のみで評価する。
テキスト	1. 「生理学(第3版)」編：内田さえ 他、医歯薬出版 2. 「シンプル生理学(改訂第8版)」著：貴邑富久子/根来英雄、南江堂 3. 「生理学マスター」著：影山照雄、医道の日本社
参考文献	1. 「標準生理学(第9版)」監修：小澤静司、福田康一郎、医学書院
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと(2時間/週) 事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること(2時間/週)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	生理学の基礎：人体の構成、細胞の構造と働き	「授業計画」欄記載の通り	
2	生理学の基礎：体液の組成と働き、物質代謝、物質移動	「授業計画」欄記載の通り	
3	血液：赤血球、ヘモグロビン、鉄代謝、血液型	「授業計画」欄記載の通り	
4	血液：白血球、免疫	「授業計画」欄記載の通り	
5	血液：血小板、血液凝固と線溶	「授業計画」欄記載の通り	
6	呼吸：呼吸器系の構造、換気機能、呼吸力学	「授業計画」欄記載の通り	
7	呼吸：ガス交換、呼吸ガスの運搬	「授業計画」欄記載の通り	
8	呼吸：呼吸運動の調節	「授業計画」欄記載の通り	
9	酸塩基平衡	「授業計画」欄記載の通り	
10	循環：大循環、小循環、動脈と静脈	「授業計画」欄記載の通り	
11	循環：心臓の構造と働き、刺激伝導系	「授業計画」欄記載の通り	
12	循環：心臓の自律神経による調節、心臓の収縮、心電図	「授業計画」欄記載の通り	
13	循環：血管の構造と機能、血行力学	「授業計画」欄記載の通り	
14	循環：循環調節	「授業計画」欄記載の通り	
15	循環：特殊部位の循環、リンパ循環	「授業計画」欄記載の通り	

授業計画

事前学修：提示された事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（2時間/回）
 事後学修：講義内容、特に専門用語について説明ができるようにノートをまとめること（2時間/回）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	5．消化器疾患：肝・胆・膵疾患（炎症、感染症、悪性腫瘍、閉塞性疾患を含む）	授業計画に記載の通り	
6	6．呼吸器疾患：呼吸器系疾患の概要、呼吸器感染症（かぜ症候群、気管支炎、肺炎を含む）	授業計画に記載の通り	
7	7．呼吸器疾患：COPD、気管支喘息（運動誘発性喘息を含む）、悪性腫瘍、その他	授業計画に記載の通り	
8	8．循環器疾患：循環器系疾患の概要、心不全	授業計画に記載の通り	
9	9．循環器疾患：弁膜症、不整脈、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）とリハビリテーション	授業計画に記載の通り	
10	10．循環器疾患：血圧異常（高血圧症、ほか）	授業計画に記載の通り	
11	11．循環器疾患：動静脈疾患（動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤、血管炎などを含む）・リンパ管系疾患（リン	授業計画に記載の通り	
12	12．血液・造血器系疾患：造血系概論、貧血	授業計画に記載の通り	
13	13．血液・造血器系疾患：白血病、悪性リンパ腫、血液凝固異常（紫斑病、血友病、DICを含む）	授業計画に記載の通り	
14	14．自己免疫疾患（リウマチ性疾患、膠原病）：SLE、RA、全身性硬化症、多発性筋炎、ベーチェット病	授業計画に記載の通り	
15	15．皮膚科疾患（接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、アレルギー性皮膚炎を含む）、その他	授業計画に記載の通り	

基本情報

科目名	生理学
時間割コード	1000960401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	田口 太郎
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目(人体)

担当教員情報

教員名	
田口 太郎	

詳細情報

授業の目的・到達目標	疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能(生理学)の正しい理解が必要不可欠である。生理学では、消化・吸収と代謝機能、腎機能と体液の調節、および筋と神経に関する生理機能の基本的な仕組みを説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。
履修上の注意事項	受講前にテキストの該当項目を読んでおくこと。
評価方法	小テスト10点×3回、筆記試験70点、合計100点とし、60点以上を合格とする。再試験は筆記試験のみで評価する。
テキスト	1. 「生理学(第3版)」編:内田さえ 他, 医歯薬出版 2. 「シンプル生理学(改訂第7版)」著:貴邑富久子/根来英雄. 南江堂 3. 「生理学マスター」著:影山照雄. 医道の日本社
参考文献	1. 「標準生理学(第9版)」監修:本間研一 医学書院
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
事前学修:	提示された事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと(2時間/週)
事後学修:	講義内容、特に用語について説明ができるようにノートをまとめること(2時間/週)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	消化と吸収:消化管の構造と神経支配(田口)	「授業計画」欄記載の通り	
2	消化と吸収:消化管運動(田口)	「授業計画」欄記載の通り	
3	消化と吸収:消化液の働きと調節(田口)	「授業計画」欄記載の通り	
4	消化と吸収:栄養素の分解と吸収(田口)	「授業計画」欄記載の通り	
5	代謝:栄養素の働き、エネルギー代謝(田口)(小テスト)	「授業計画」欄記載の通り	
6	神経:活動電位、イオンチャネル、シナプス伝達(神経筋接合部、中枢神経系のシナプス伝達)(野口)	「授業計画」欄記載の通り	
7	神経:運動系 脊髄、脳幹(運動ニューロン・伸張反射)(野口)	「授業計画」欄記載の通り	
8	神経:運動系-小脳、大脳基底核(野口)	「授業計画」欄記載の通り	
9	神経:脳の統合機能-大脳皮質、大脳辺縁系(野口)	「授業計画」欄記載の通り	
10	神経:脳の統合機能-脳波、睡眠、学習、記憶(野口)(小テスト)	「授業計画」欄記載の通り	
11	排泄:腎臓の機能的構造、糸球体ろ過(田口)	「授業計画」欄記載の通り	
12	排泄:尿細管の機能、尿の濃縮(田口)	「授業計画」欄記載の通り	

授業計画

事前学修：提示された事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（2時間/週）

事後学修：講義内容、特に用語について説明ができるようにノートをまとめること（2時間/週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	排泄：体液の調節、浸透圧、蓄尿と排尿（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
14	筋：骨格筋の構造と機能、収縮、心筋と平滑筋（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
15	体温：体温調節、体熱の産生と放散（小テスト）（田口）	「授業計画」欄記載の通り	

基本情報

科目名	生理学（講義・演習）
時間割コード	0430200601
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	田口 太郎
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目（人体）

担当教員情報

教員名	
田口 太郎	

詳細情報

授業の目的・到達目標	疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学で一通り学んだ内容を基礎として、ホメオスタシスおよび感覚機能に関する機能の仕組みを説明できるようになることを目的とする。演習では、実際にデータを測定し、その解釈を通して生理学的現象を説明できるようになることを目的とする。
履修上の注意事項	講義：必ず該当項目の解剖学を復習しておくこと。事前課題を毎回講義開始時に集めるので、受講前にテキストの該当項目を読んで解いておくこと。 演習：レポートの提出がない場合はその項目は評価できないので注意すること。
評価方法	筆記試験35点・演習33点・毎講義の課題2点×11回・小テスト5点×2回。再試験は筆記試験のみで評価する。
テキスト	1. 「生理学（第3版）」編：内田さえ 他，医歯薬出版 2. 「シンプル生理学（改訂第7版）」著：貴邑富久子/根来英雄，南江堂 3. 「生理学マスター」著：影山照雄，医道の日本社
参考文献	1. 「標準生理学（第9版）」監修：本間研一 医学書院
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
【講義】	事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（1時間/週） 事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（1時間/週）
【演習】	事前学修：演習の手引きに記載されている内容を熟読し、用語や手順について下調べを行うこと（1時間/週） 事後学修：実施した演習で指示された課題を作成すること（1時間/週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	内分泌：ホルモンの作用機序と調節、視床下部・下垂体（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
2	内分泌：副腎皮質・副腎髄質・甲状腺・膵臓（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
3	内分泌：カルシウム代謝の調節、性ホルモン（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
4	生殖・成長と老化：生殖、妊娠と出産、成長、老化（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
5	自律神経系：自律神経の働き・神経線維、伝達物質と受容体【小テスト】（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
6	自律神経系：自律神経系の中核、自律神経反射	「授業計画」欄記載の通り	
7	感覚：感覚の種類と一般的性質（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
8	感覚：体性感覚、内臓感覚（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
9	感覚：特殊感覚（田口）	「授業計画」欄記載の通り	
10	演習（1）心電図の測定（江崎・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	

授業計画

【講義】

事前学修：事前課題について、テキストを熟読し回答を用意しておくこと（1時間/週）

事後学修：講義中に返却された課題について修正を行い、内容について説明ができるようにすること（1時間/週）

【演習】

事前学修：演習の手引きに記載されている内容を熟読し、用語や手順について下調べを行うこと（1時間/週）

事後学修：実施した演習で指示された課題を作成すること（1時間/週）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	演習（2）負荷心電図 トレッドミル （江崎・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
12	演習（3）負荷心電図 エルゴメータ （江崎・田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
13	演習（4）二点弁別閾の測定（江崎・ 田口・浅井・花田）	「授業計画」欄記載の通り	
14	生体の防御機構	「授業計画」欄記載の通り	
15	身体活動の協調：適応、恒常性維持、バ イオリズム（田口）	「授業計画」欄記載の通り	

基本情報

科目名	運動生理学
時間割コード	1000790401
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	手嶋 智子
科目区分	共通専門科目 鍼灸共通専門科目(人体)

担当教員情報

教員名
手嶋 智子

詳細情報

授業の目的・到達目標	1.学修者は体の構造と機能に関する基礎を理解し、説明できるようになる。 2.学修者は運動に対する体の応答や運動トレーニングによる体の適応を理解し、説明できるようになる。 3.学修者は特殊環境下での運動時のからだの働きを理解し、説明できるようになる。"
履修上の注意事項	授業前には資料や参考文献に目を通し、授業で取り扱う内容を大まかに把握しておくこと。また、毎回の授業終了後、授業内容の理解を深めるよう各自努めること。予習・復習を120分間すること。
評価方法	期末筆記試験による(100%)
テキスト	授業内にプリントを配布
参考文献	
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	骨格筋と運動(筋線維の種類とその特徴)		
2	骨格筋と運動(筋収縮とエネルギー供給)		
3	運動と呼吸		
4	運動と循環(心臓)		
5	運動と循環(末梢)		
6	脳と運動		
7	神経系による運動の調節(中枢神経)		
8	神経系による運動の調節(末梢神経)		
9	運動と内分泌		
10	運動と免疫		
11	運動と環境		
12	運動と体温調節		
13	運動と栄養		
14	運動と発育・発達		
15	運動と老化		

基本情報

科目名	公衆衛生学
時間割コード	0430130201
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	嶋 政弘
科目区分	共通科目 科学的思考の基盤

担当教員情報

教員名
嶋 政弘、阿部 敦

詳細情報

授業の目的・到達目標	1 現代における健康課題を理解するために、その基礎となる知識と技能を習得する。 2 私たちを取り巻く自然・社会環境や人々の活動を理解し、心身ともに健康で豊かなQOLの向上を目指すことができる。
履修上の注意事項	1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。
評価方法	ディスカッションへの参加40%、期末試験60%で評価する。 再試験は実施しない。
テキスト	使用しない。
参考文献	毎回、資料（学習プリント）を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	健康の定義と位置づけ		
2	健康の要因と公衆衛生の特徴		
3	公衆衛生の歴史（公衆衛生の発展に寄与した人物を基に）		
4	予防医学とヘルスプロモーション		
5	健康な社会を目指して 健康の測定と健康指標		
6	健康な社会を目指して 人口に関する現状と課題を中心に		
7	健康な社会を目指して 新生児～学童期の生命（母子保健を含む）		
8	集団の傾向の把握 疫学的考えに基づく解析		
9	学習指導案の作成 学集団の傾向の把握 実態把握の方法とバイアス		
10	教育情報機器の操作 集団の傾向の把握 データの種類と解釈		
11	感染症とその予防 感染症成立の条件と発症までの経緯		
12	感染症とその予防 感染症に関する現状と傾向（予防と根絶を含む）		
13	食品保健と栄養 食品の安全（食中毒）と現状		
14	食品保健と栄養 食品の機能と安全性		
15	生活習慣病 主な生活習慣病の原因と健康影響（予防と対策を含む）		

基本情報

科目名	環境衛生学
時間割コード	0430130301
開講所属	看護福祉学部鍼灸スポーツ学科
ターム・学期	2021年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	星野 輝彦
科目区分	共通科目 科学的思考の基盤

担当教員情報

教員名
星野 輝彦

詳細情報

授業の目的・到達目標	環境因子と人との相互関係に関する知識について学ぶ。 生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できるようになる。
履修上の注意事項	授業前にプリントを読み、わからない語句を調べる。また授業で得た知識を復習しておくこと（60分）。 出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の質問や感想を書くこと。次回講義の際回答します。
評価方法	試験90%、レポート10%
テキスト	各講義の際に資料を配布する。
参考文献	「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版） 「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	薬剤師として学校環境衛生管理に関与している。

授業計画

授業計画
スライドやDVDを利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史	環境と人類の共存 事前：2時間、事後：4時間	
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準	体内動態と毒性発現 事前：2時間、事後：4時間	
3	環境化学：生態系と物質動態	生態系の構造と環境の中の物質の動態 事前：2時間、事後：4時間	
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨	地球温暖化 事前：2時間、事後：4時間	
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響	化学物質の健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響	環境ホルモン 事前：2時間、事後：4時間	
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響	病原微生物の健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響	放射線の健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）健康への影響	温度、気圧、騒音などによる健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策	大気汚染の健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策	水による健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒	食品汚染による健康被害 事前：2時間、事後：4時間	
13	生活環境と健康：室内の汚染物質	室内の汚染物質 事前：2時間、事後：4時間	

授業計画

スライドやDVDを利用します。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法	廃棄物の分類 事前：2時間、事後：4時間	
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント	環境アセスメント 事前：2時間、事後：4時間	